

官庁・行政

根室市

2023年2月23日 木曜日

外国人技能実習制度理解を 根室で受け入れ側勉強会

【根室】根室振興局は22日、独自事業の外国人技能実習制度勉強会を開いた。3年目の取り組みで、過去2回は外国人向けだったが、受け入れ側対象は初めて。人口減や労働力人口の流出が課題となっている地域で、外国人材は地域の産業を支える必要不可欠な存在だ。根室管内には技能実習の仕組みで614人（2022年6月末）が滞在しており、制度の理解促進を図ることで来日後のトラブル防止になるなどと理解を求めた。（山本繁寿）

同振興局は20、21年度と技能実習生や外国語指導助手（ALT）に対するセミナーを開いた。今回は初めて、管内の自治体や受け入れ側となる産業団体向けに行った。ウェブ会議アプリ「Zoom（ズーム）」会議には、根室管内の自治体や農・漁協、建設会社など35団体・企業が参加。

講師は国の外国人技能実習機構、技能実習生を受け入れている監理団体の根室商工会議所、北海道近代酪農協同組合（別海町）、ベトナムの人材送出機関が務めた。

道内企業は、ほぼ100%監理団体から受け入れているとし、職種別は水産加工を中心とした食品製造、酪農が主の農業、建設業の順。増加傾向を見せている職種は介護、宿泊施設。受け入れ国はベトナム、インドネシア、中国の順。

監理団体からは、実習生とのトラブル防止に「普段からのコミュニケーション」「受け入れから帰国まで責任を持つこと」などのアドバイスがあったほか、ベトナムの送出機関「ユー・インターナショナル・ヒューマン」の佐々木泉社長は、受け入れ先の課題として単なる労働力の補填として扱う、非営利団体であるはずの監理団体が人材紹介事業を行っている例があるなどとトラブル要因を報告。ブローカーなどを介さない送出機関、監理団体を選ぶことが重要と指摘した。

外国人技能実習機構の担当者は、実習生のパスポートや携帯電話を取り上げたりする行為は人権侵害で、罰則の対象との説明もあった。

根室管内には1064人の在留外国人があり、うち614人が技能実習生資格での来日。内訳は根室市234人、別海町244人、中標津町50人、標津町62人、羅臼町24人。根室市によると、昨年12月末時点の実習生は315人。ベトナム291人、インドネシア20人、フィリピン4人となっている。



[写真／受け入れ側向けに初めて開いた外国人技能実習制度勉強会]

